

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 発行人 内藤 留幸
 編集主筆 竹澤 知代志
 印刷所 株式会社きかんし



『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議(同宗連)

『同和問題』にとりくむ宗教教団 連帯会議の議長として 小林 眞

神は御自分にかたどって人を創造された。
 神にかたどって創造された。
 男と女とに創造された。(創世記1章27節)

主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、
 その鼻に命の息を吹き入れられた。(創世記2章7節)

反省と悔い改めから結成された『同宗連』

【はじめに】

本年4月、『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議(以下、同宗連とする)総会(任期2年)に就任し半年が経過したが、同宗連の発刊や活動を紹介し、理解とお支えを願う次第。

【I 結成と出発】

30年前に、ある仏教団の責任ある立場の方が、ブリストンで開催された第3回世界宗教者平和会議の場で「日本には、部落差別と呼ばれるものはない」などの事実誤認も甚だしい発言をされたことに対し、長く部落解放運動に取り組んできた人々が、日本社会に現存する部落差別の現実を示し、それらにかつての宗教教団(者)がどのように関わっていたかを指摘し、厳しい糾弾を行った。

【II 現状と課題など】

同宗連は出発時の決意である「部落解放」に向けて取り組んできた。具体的にはフィールド・ワークを含む多種の研修会を開催し、さらには各教団内の啓発活動に資するよう資料を作成し、また各宗教教団間の連帯等を目的

者たりえないことを自覚し」と記したように、出発時の決意は本心に重く厳しいものであった。

この呼びかけに55教団、3協賛団体の賛同があり、1981年6月に同宗連が結成され今日に至っている。

勿論、それまでも、一部の教団(日本基督教団では、1975年第3回常議員会で「部落差別問題特設委員会」設置。1981年第1回常議員会で「部落解放センター」の設置を決定し、同年9月に開所)では、内外からの問い合わせや指摘から部落差別撤廃に向けての運動に取り組んではいたが、上記の件がきっかけとなり、各宗教教団においても共通の課題として認識されるようになった。

つまり、同宗連とは、外から指摘と糾弾を受けた結果、反省と悔い改めの中から結成された宗教教団組織であると言える。

同宗連は出発時の決意である「部落解放」に向けて取り組んできた。具体的にはフィールド・ワークを含む多種の研修会を開催し、さらには各教団内の啓発活動に資するよう資料を作成し、また各宗教教団間の連帯等を目的

とした広報活動も継続してきた。またこれらの活動は、同宗連独自のものもあれば、他団体との共催で行っている行事も多い。

さらに具体的な解放への取り組みや活動は各教団に委ねられているとはいえ、これまで開催した同宗連主催の研修会などに、合計どれだけの人が出席し学ばれたことが、それらの学びを通して、外に現れる効果は数字上は出ないかもしれないが、個人々々の中での意識変化は大きいと思われる。

しかし私は、出発の頃のことを詳しくは知らないが、同宗連は、各教団の教義や目的などの相違から、同宗連(議長・役員教団)そのものが強力な指導性を発揮して前進する組織ではないと思われ、少なくとも現在はそうである。

ただ運営上の利点から、当初は議長教団が、研修会などの企画や、広報全般などの多くの部分を担った。

つまり、議長教団を引き受けるには、相当の人材の必要もあり、実際の事務局の分量も覚悟しなければならなかった。それ故に、気持ちあっても教団の実情から、そこまでの働きはできないと議長就任を固辞する教団が現れ始めた。そこで少しだけでもこの課題を複数の

教団で分担する方が良いとの考えから、企画部門や広報部門を別教団で分担するようになったのは非常に良かったと思う。また、事務軽減を目指しても、様々な改善が行われ、現在は3人くらいの事務局体制で運営できると思われる。

また同宗連の直接の目的ではないが、結果的に各宗教教団間の交流・懇親がなされているのは、他では見られない意味あるものと思われる。

ただ課題もないわけではない。例えば、現在は加盟教団が64教団であるが、以前とはあまり変わらず、今後どのように参加教団を増やしていくかもその一つ。

また、「同和」「部落」の表現を巡っても繰り返し議論がなされる。これは各教団の事情もあり、それぞれの温度差の中で、「同和」「人権」と名称を変えて活動する教団もある。

これには、積極的に「同和問題をはじめ、一切の差別をなくす」という前向きの変容もあれば、「部落」や「同和」という引く人がいるので、「人権」に変更した教団もあるようだ。

しかし出発から考えて、取り組む中心は「部落解放」であることは明らかである。その確認だけは繰り返し必要と思われる。

その意味で、同宗連の働きは、部落の完全解放を目指すという長く継続されるべきものである。

しかし狭山事件で、被害別部落への見込み捜査による逮捕され、一審死刑、二審無期懲役(確定)の判決を受け、現在仮釈放中の石川一雄氏に関しては、年齢(70歳)と健康から考えて、無罪を勝ち取るまで余り時間がない。

従って、この解放運動の取り組みには、解放全般に関する長期的展望と同時に石川氏に関しては短期的集中的取り組みという複眼が求められるのである。

同宗連が結成されて以後、2011年に結成30周年を迎える。結成10年、20年の節目には記念誌を出版するなどの特別行事を行ってきた。前例に倣うだけではないが、やはりこの機会に現在の状況は出発時と違うことを認識した上で、今後の道を探り、確認するためにも記念行事を行う予定で

ある。また日時・内容・場所などの詳細は決定されていないが、少なくとも、現在の社会と同宗連の状況を正しく把握し、今後の方向を定めるような記念の会にしたいと考えている。

以上、同宗連の現状などを書かせて戴いたが、この状況の中で、各宗教教団との連携を密にしつつ誠実に、この任を担いたいと思う。なお事務局はキリスト教会館5階にある一室。今後とも、お支えを。 (遠州教会牧師)

同宗連が結成されて以後、2011年に結成30周年を迎える。結成10年、20年の節目には記念誌を出版するなどの特別行事を行ってきた。前例に倣うだけではないが、やはりこの機会に現在の状況は出発時と違うことを認識した上で、今後の道を探り、確認するためにも記念行事を行う予定で

同宗連が結成されて以後、2011年に結成30周年を迎える。結成10年、20年の節目には記念誌を出版するなどの特別行事を行ってきた。前例に倣うだけではないが、やはりこの機会に現在の状況は出発時と違うことを認識した上で、今後の道を探り、確認するためにも記念行事を行う予定で



発足から間もなく30年、現在は64教団が加盟

【終わりに】

以上、同宗連の現状などを書かせて戴いたが、この状況の中で、各宗教教団との連携を密にしつつ誠実に、この任を担いたいと思う。なお事務局はキリスト教会館5階にある一室。今後とも、お支えを。 (遠州教会牧師)

教団新報発行についてのお知らせ
 次号、4687号は、常議員会報告を掲載する都合上、定例よりも1週発行を繰り下げ、11月28日の発行といたします。4689号はクリスマス特別号として、12月25日に発行いたします。
 新年号は、10年1月30日の発行となります。
 総幹事 内藤留幸



「おとなになつてしまつと、お互いにただただ正直である時は数えるほどしかない。日常生活で真実を口にしても必要もなく、害になるだけだから、誰もしいというわけだ。今世紀になつて宗教が苦勞している理由の一つもそこにある。本当に神を見出すには、正直にならなくてはならない。正直になるためには、まず自分をはつきり見るところから始める必要があるが、それは辛すぎる。」
 ……ジョン・キヤロル、
 『空に浮かぶ子供』、創元推理文庫。作品を論じるつもりも、作家を紹介するつもりもない。出典を上げたのは、出版上の義務に基づいただけ。文脈も背景も関係ない。教団会議室が改装された。しかし議論の方は整然とはならないようだ。相手の顔が見えることよりも、自分の顔が見えるように、口の字型のテーブルの真ん中に鏡を置いたらどうだろう。…ますます議論沸騰するだろう。インターネットで全国中継出来ないかと考え、その道に詳しい人に相談したことがあった。教勢半減を覚悟してね、が答えだった。

北海道伝道の担い手に聞く 札幌・小樽で第3回伝道委員会

第36総会期の第3回伝道委員会が9月28日(月)～29日(火)、初日は札幌教会、2日目は小樽聖十字教会において開催された。

開会礼拝では、竹井真人委員が説教を担当した。相沢良一隠退教師(元・大島元村教会牧師)の召天が覚えられ、長年大島に留まり地域の信頼を得、「黒潮」の発行により全国諸教会を励まし、日本伝道に仕えた生涯が想起された。

初日の夕べには、北海道伝道の担い手である2人の牧師による発題を聞き、また、親しく懇談の時を持った。

榮英彦札幌教会担任教師

札幌・小樽で第3回伝道委員会

は、北海道におけるキリスト教幼児教育の一面」と題し、受洗、召命、奄美大島伝道、説教者の苦悩、札幌における幼児教育等を通して、伝道者としての証しを語った。

福島恒雄隠退教師は「北海道基督教史と北拓伝」と題して、北海道基督教史に見る特徴に加えて、1954年の第7回回教団総会にて決議された「北海道開拓伝道」以後、10年間に28教会が誕生した経緯や事情について発題した。大変に貴重な発題であった。

今回の委員会で扱われた内容は以下のものである。

2009年度前期分貸出

2011年7月の開催を目指して スイス協約・韓国協約(合同) 第1回・第2回三國協議会実行委員会

2009年9月4日と10月5日、スイス協約委員会と韓国協約委員会の合同による「三國協議会協議会」のための第1回と第2回実行委員会が、教団会議室で開催された。

実行委員に、両協約委員会の委員と事務局担当者に加えて、新しく荒川朋子氏(アジア学院副校長)、茨木公子氏(上尾合同教会信徒)、木村太郎氏(宇都宮教会牧師)を迎えることが承認された。

そもそも本実行委員会は、前総会期から続けられた合同委員会での協議を踏まえ、また教団三役・総幹事が出席可能な2010年7月に、東京での第3回三國協議会の開催を目指して発足した。しかし第1回実行委員会の直後に、スイ

台で開催する伝道委員長会議の準備を進めた。

「信徒の友」「こころの友」について、担当委員2名から報告を受け、編集方針の必要性について編集委員会に要請することになった。

伝道委員会の活動が全国諸教会の伝道に資するものとなるために、伝道に関するアンケートの実施と情報発信が立案されている。

2日目の会場の小樽聖十字教会は、2007年度開拓伝道援助資金の被援助教会である。小栗昭夫牧師より教会の歴史と会堂建築の証しを聞いた後、新会堂にて山岡副委員の奨励で祈禱会を開催した。教会員の方々と祈りを合わせる恵みの時が与えられ感謝であった。

(岩田昌路報)



小樽聖十字教会で、小栗昭夫牧師(前列左から4人目)・教会員と共に

ス側のパートナーであるスイス・プロテスタント教会連盟(SEK)およびスイス諸宣教師団の合同体であるミッション21から、非公式ながらも、日程的に不都合との連絡が入った。対応を協議した結果、第2回実行委員会で、2011年7月の開催を目指して諸教会と再度調整を行うことになった。また総会期をまたぐことと関連して、現実行委員会のメンバー全員が協議会終了まで関わることを目指すことになった。

この間、9月中旬に韓国協約委員会がソウルを訪問し、韓国基督教長老会(PROK)・大韓イエス長老会(PCK)と並んで、過去の三國協議会に参加していなかった基督教大韓監理会(KMC)から新しく参

加同意を得られたことは喜ばしい。なお日本からは在日大韓基督教会を招く予定である。

総合主題として、「平和の絆」一つの体、一つの霊、一つの希望(エフェソ4章3?4節)東アジアにおけるキリスト教会の責任とヴィジョン(仮)が提案され、参加メンバーについても教会指導部と並んで、学識経験者や現場の諸活動を担う人々を加えたカンファレンス形式が望ましいことが確認され、またアジア学院見学を含む現地研修プログラムやオプショナル・プログラムの協賛も進められた。これらの事項は今後、関係諸教会との緊密な連絡を通して、確定してゆくことが確認された。

(廣石望報)

東海教区の試み

重い課題にも楽しく向かい合う...



束の間の休憩、一杯の麦茶の美味しいこと！

09年度の各教区総会を概観した時に、聖礼典執行を巡る議論や、教師への戒規適用を巡る議論が突出していた。事柄の重要性と深刻さを思えば、当然のことであろう。しかし、この議論に隠れるようにではあつたかも知れないが、実は、各教区総会に共通して、最も頻度高く取り上げられていた議論ないし課題は、他の事柄であった。そのことは、各教区総会の後に開催された、第36総会期第2回常務委員会に報告された教区報告を見れば明らかである。

教団新報紙上に、秋葉恭子編集委員の文責による一覧表が掲載された。課題の項目の「謝儀基準・制度の見直し」「互助関連」の項目を合わせれば

重複も多く、沖縄教区を除く16教区中、計15件となる。これに、財政の見直しの項を加えると、計24件となる。

因みに、「伝道・宣教協力教勢衰退(含む)」は、9件、これも合わせれば、実に計31件となる。

原因の分析とか、教団内に於いて必ずしも一致を見る事ができない伝道論に触れずとも、全く客観的な事実として、伝道力衰退、財政危機、教職謝儀及び互助制度破綻の不安という構図が出来上がってしまった。

加えて、公的年金、教団年金についても、不安を拭えない。正に、教団諸教会の未来は、不安だらけなのだ。

少し古い話になってしまったが、8月3日(月)東海教区常置委員及び執行部の呼びかけに応えた有志が、「ジャガ芋掘り」を行った。場所は、通称「山本農場」の一分場。篠ノ井教会山本将信牧師個人の農場なのだが、タマネギやジャガ芋など、その収穫物は、しばしば教区に提供され、謝儀互助の一助となる。

収穫物は甲府市内の教区事務所などに運ばれ、そこから機会あるごとに教区諸教会に配られ販売される。どこの市場に出しても見劣りしない立派な作物が市価の半分、それ以下で提供される。

8月3日は前日までの

雨が上がり猛暑となった。湿った土は重く、シヤベルにこびりつく。最悪の条件下ではあつたが、一同張り切って働いた。日頃の運動不足が暴露される機会でもあつたが、みるみる積み上げられて行く芋の山を見れば、充実感が湧く。昼過ぎに始めて夕方まで、小さな子どもも含め延べ20人が汗を流し、約700キロの収穫を得た。かなりの部分が、キロ100円程度で、各教会に配られると言ふ。

銭湯(温泉)で汗を流した後は、篠ノ井教会の庭で、バーベキューパーティー、篠ノ井教会員で近々にお店を出す予定のブロが打った十割蕎麦もいた。この人はそもそも山本牧師の蕎麦打ちの弟子と聞いて驚いた。蕎麦粉は勿論、山本農場の産。他にも枝豆、



左・山本将信牧師、右・小出望教区議長

とつてもいい、全部覆れ立て、その美味しいことと言つたら。

東海教区が必要とする謝儀互助資金額に比べたら、何程のことではないかも知れない。しかし、皆が一つの目的のために、汗を流して働くということ、しかも、それは悲痛なものではなく楽しいこと、そこに、大きな可能性が秘められているように感じた。美味しいものを食べながら、飲みながら、話題は当然ながら、建設的な方向に向いて行く。夢を語り、ちよつとほら話も混じり、伝道の幻が生まれ、育てられて行く。

山本牧師はじめ執行部有志は、次は是非米を作り現物支給したいと言ふ。篠ノ井で伝道の夢を見、幻を語る人々と楽しい交わりを与えられた。

(新報編集部報)

再び広がる大学カルト被害

九州・西東京・東京三教区合同統一原理問題研修会

9月7日(月)、九州キリスト教会館4階で、九州・西東京・東京三教区合同統一原理問題研修会が開かれた。

これまで若者、主婦、高齢者がカルトの主な被害者だったが、最近また大学での被害が広がっていることもあり、出席者47名のうち8名が大学関係者だった。

まず「今日の統一協会の現状について」大神周一弁護士から、これまで統一協会に対して起こされた訴訟

や、刑事事件として立件された事件を検証しながら、統一協会側の主張の変化やこれまでの対応についての説明があった。

次に大学でのカルト問題について、アンケート調査の結果が紹介され、主にA大学のカルト対策と具体的な事例が報告された。今春脱会したBさんは、自身の経験に基づいて大学におけるカーブ(大学生の原理研究会)の働きについて語った。それによると、祝福二世(所謂合同結婚で生まれ

た夫婦の)と信仰二世(夫婦での入信者の)が各大学で中心となって活動しているという。

続いて九州地区の相談活動と現状が報告された。九州教区では、他教派と協力しての超教派での活動が行っており、これが教区の特長となっている。

また韓国に渡った女性たちを支援するため、現地との連携の必要性が訴えられた。

ヨハン(淀韓)キリスト教会内部での体罰やセクシ

被差別の実態から学び、連帯し続けて

西中国教区部落差別問題現場研修会



井上ハツミさんと小森龍邦さんの講演を聞く

西中国教区が、教団の中心として26年、現場を拠点とした研修会は、17回を数えるに至った。この教区

は、被差別の実態から学び、部落と密着し、連帯をすすと重んじてきた。

今年の研修会も、3人の講師を迎え9月6日、7日福山東教会と府中市旧隣保館で行った。参加者40名。第1日目開会礼拝、夕食、報告(広島キリスト教社会館と教団解放センター)を聞いて、講演会。

講師の岡田英治さんは、解放同盟広島県連合会副委員長、尾道向島支部長、県では運動の中心的存在。報告「生後間もなく不幸と試練に遭い、極貧と被差別の中を生きた」と話された。

「小学校卒業の時みんなは泣いていたけど、うちはもう二度と学校なんかこないぞ。見たくもないと、後も

一原理問題連絡会は五島に渡った。統一協会問題キリスト教連絡会で共に活動する久志利津男神父、それに紀藤正樹弁護士とが合流してカトリックの諸教会を訪

れ、カルトの危険性に対策について喚起を促した。五島市長の中尾都子氏とも統一協会をはじめとするカルト被害と予防について懇談した。(吉田好里報)



「解放運動の中で、沢山の差別事件があり、悩みました」と事例を話された。部落解放への3つの命題、部落差別の本質、部落差別の社会的存在意義、社会意識としての差別観念、について説明された。若干の質疑応答の後、閉会。

2日目府中市旧隣保館へ移動、井上ハツミさんと小森龍邦さんの講演。

井上さんは、62才で部落解放文学賞を受賞、去年私の生れた日」を出版。彼女は「生後間もなく不幸と試練に遭い、極貧と被差別の中を生きた」と話された。

「小学校卒業の時みんなは泣いていたけど、うちはもう二度と学校なんかこないぞ。見たくもないと、後も

消息

大石嗣郎氏(隠退教師)
8月31日、逝去。87歳
アメリカ合衆国・カリフォルニア州に生まれる。'60年東京神学大学大学院を卒業、同年碑文谷教会に赴任、04年に隠退した。遺族は、妻・陽子さん、相沢良一氏(隠退教師)

9月23日、逝去。91歳
静岡県に生まれる。45年日

本基督教神学専門学校研究科を卒業、'45年大島元村教会に赴任、岡田伝道所、北ノ山伝道所を兼任し、'97年に隠退した。遺族は、妻・悦子さん、福島健之氏(無任所教師)

9月26日、逝去。72歳
東京都に生まれる。'97年農村伝道神学校を卒業、同年国分寺教会に赴任、'98年より菜園台教会を牧会した。遺族は、妻・明美さん。

事務局報

教師異動
筑後福岡 就代)中島保壽
の格調高い講演だった。閉会礼拝をもって正午、研修会を終えた。(東岡山治報)



講演する岡田英治さん

用瀬	就(主)葉 以潔	教師改姓
勿来	就代)渡辺利彦	相見泰恵 大塚泰恵
七里	就代)小池与之祐	教師改名
木更津	就代)村田 重	福田智之 福田鳥巢
清水	就代)小出 望	教会所在地変更
河内長野みぎわ	就代)村上恵理也	久宝 柏原市旭ヶ丘3-13
	塩谷一粒 辞主)神田みどり	45特別養護老人ホーム
水元	辞主)齋藤 宏	大阪 好意の庭内
	辞担)小森裕之	札幌北部 札幌市北区太平
	就(主)小森裕之	6条6-4-15
足立梅田	辞担)柴田園子	松永 福山市今津町4-3
東京教区	辞教)増金 潔	教会通信先設定
アジアキリスト教教育基金	辞教)船戸良隆	久宝 柏原市国分市場1-1
大阪泉尾	辞(主)小林 望	9-45 特別養護老人ホーム
	就(主)西田 晃	1-ム第二好意の庭内
天満	就代)村山盛芳	教会所在地変更
聖峰	辞代)神田健次	三島 三島市中田町12-10
	就(兼主)神田健次	七飯 北海道亀田郡七飯町
上富坂	辞(主)山口智子	本町8-2-1
教師隠退	甲賀道生 大澤正司、	鳳 堺市西区鳳中町9丁7
	齋藤 宏 澄田健一郎	1-3
	鶴沼義民 田口重彦	用瀬 鳥取市用瀬町別府字
	隠退)より復帰	浜田1-24-7
	福本光子、岡崎 晃、	伝道所開設
	西田 晃	神の愛キリスト 稲敷市光
	教師休職	葉10-65
	五島 勝 大西英恵	伝道所通信先変更
		鹿屋 鹿屋市寿2-18-17
		野元美佐子方

第3回信仰職制委員会

第36総会期の第3回信仰職制委員会が9月28日(月)に、委員7名全員の出席のもと教団会議室で行われた。

愛澤豊重幹事の辞任にともない、新しく担当幹事となった藤盛勇紀幹事の紹介と挨拶がなされた。

今回は、新しい諮問が出されていないため、答申を出す作業は行わなかった。

前委員会からの申し送り事項である「教団教会暦行事についての問い合わせ(出版局)」について検討し、「教会暦」についてのみ答申することとした。これについて委員が作成した試案をもとに討議し、継続とした。

次回委員会は、2010年1月25日(月)26日(火)の予定。(小堀康彦報)

献身のとき

NOOSHIN
KENSHIN
TOKI

No.8

素通りしていくのか！

堀地 正弘(河内長野教会牧師)

早いもので、神学校に入学してから20年が経ちました。しかし、献身の志を与えられた日のことは、今でもはっきりと覚えていま

す。当時、就職したばかりの私は、求道中の友人(女性)に誘われて教会に通うようになりまし。それから約1年後の神学校日の礼拝で、「収穫は多いが、働き手が少ない」との御言葉に捕えられ、神様に降参して、献身の道を歩み始めることになったのです。

そのときの経過は、こうでした。その年の夏頃、私を教会に誘ってくれた女性との結婚話が浮上りまして、2人で牧師に相談したのです。これを契機に、2人とも同じ日に洗礼を受けることとなり、結婚式も教会でお願いすることになりました。ところが、通っていた教会が当時教会堂建築中で、すでに旧会堂は解体されています。さすがに仮会堂で結婚式は...。途方に暮れていましたところ、牧師が代務者をしておられた別の教会を紹介くださり、そこで結婚式を挙げさせていただけることになりました。

忘れもしない夏の日の礼拝後、

ご挨拶のためその教会をお訪ねしたときのことです。静かな住宅地にある、小さな素敵な会堂でした。しかしその教会の牧師は、ご高齢のため入院を繰り返され、既にその教会を退任しておられました。そのため、私どもの教会の牧師が代務をしていたのです。話にこそ聞いておりましたが、無牧師状態の教会に初めて出合い、大きなショックを受けました。そのときです。神様の声を聞いたように思えたのは、このような教会がたくさんあるのに、その前をあなた

は素通りしていくのか! と思うと、問いかける声でした。当時私は、海外への転勤と結婚を控えていました。家も親もキリスト教とは全く無縁で、とても道を変えられる状況ではありませんでした。それで何度も自問しました。「気の迷いではないか?」「海外赴任して、帰ってきても気持ちが変わらなかつたら神学校に行こう!」

そう自分に言い聞かせました。ところが不思議なことに、これ以降、仕事で訪ねる取引先や出張先のすぐそばに、必ず教会や神学校があるのです。オフィスで異動があり新しい席につくと、背後の窓越しに教会が見えます。受洗記念に買った「信徒の友」には、神学校日特集が紙面を飾っています。礼拝に行けば、キリストに従う弟子の話や、鋤に手をかけてから...等、毎週そつう説教ばかりが、なぜか続きます。まだ誰にも打ち明け

ていないのに、どうして? 一か月間々々過したのち、気がつく、ある夜、牧師館を訪ねていました。しかし牧師を前にしても、なかなか打ち明けられませんでした。押し黙ったまま、どれくらい時間が経ったでしょう。牧師の方から、静かにこう尋ねてくださいました。「あなた、神様の声を聞いたのではありませんか?」

ああ、やっぱりそつうだったのだ。神様の呼ぶ声を聞いたのだ。すべてをお話しするうちに、不思議と気持ちが高揚し、心が定まってくるのを感じました。それで、すべてを神様にお委ねして道を変えることにしました。仕事を辞め、神学校へ進む準備を始めました。後でわかったことですが、彼女も、あの日の時あの教会で、献身への招きを受けていたそうなんです。

その後2人は結婚し、2年違いで東京神学大学に学びました。今は2人で仲良く、違わされた教会で、伝道・牧会にいそいそといます。

今年のエイスターに近隣の公園で



今年のエイスターに近隣の公園で

お会いしましょう

「キリストこそ、わが救い」これは、プロテスタント伝道150年記念行事の標語です。この標語のもとに、記念式典に集い、喜びを共にしましょう。聖書の歴史も、教会の歴史も、大切な節目では、みんなで集い、讃美し、祈ったのです。「ありがと」150年、つなごう200年、主とともに「これは、信徒大会の標語です。全国の信徒が信徒の名で呼びかけて一堂に会するのは40年振りになりました。継ぐ責任を集うこと

示しましょう。
? 11月22日(日) 東京山手教会で
? 11月23日(祝) 東京青山学院で
お会いしましょう。
伝道150年記念行事準備委員会委員長

東京クローバークラブ演奏♪ 信愛荘を支えるための チャリティーコンサート

◎日時 2009年11月28日(土) 14:00開演(13:30開場)
◎場所 東洋英和女学院 マーガレット・クレイグ記念講堂
◎演奏 東京クローバークラブ、ムジカ・インフィニタ(賛助)、小川明子(アルト)、荒井牧子(オルガン)、小林香太(指揮)
◎チケット 2,000円
◎問い合わせ 信愛荘主事・池田浩二(0428-22-2283)

「インド・スマトラ・フィリピン被災者救援募金」のお願い

主の御名を賛美致します。9月末インド南部は集中豪雨による洪水に見舞われ270人が死亡、250万人が家屋を失いました。インドネシア・スマトラ島沖では強い地震があり、死者・行方不明者は1,000人を超えました。フィリピンでは10月3?4日にかけて前の台風16号に続いて17号「パーム」が直撃、死者は375人に上ります。現在各地域では救援、支援活動が活発に行われています。社会委員会はすでに被災者支援活動をはじめたAction by Churches Together (ACT) Internationalの呼びかけに応じて緊急救援募金を行いたいと思います。ご協力をお願いいたします。

2009年10月15日
日本基督教団社会委員会委員長 福井博文
記
◎募金期間 2009年12月末
◎目標額 特に定めず
◎送金先 加入者名/日本基督教団社会委員会
◎郵便振替 00150-2-593699
(通信欄に「インド・スマトラ・フィリピン救援募金」とお書きください)
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
日本基督教団社会委員会 (03-3202-0544)

ひととき

矢崎 容子さん

主への讃美に 生かされて



長野県生まれ。聖ヶ丘教会員、東京教区西南支区常任委員。

「信仰の原風景」をキリスト者はそれぞれに持つ。クリスチャンホーム育ちの容子さんにとって、それは日本基督教団諏訪教会の礼拝での讃美歌だった。会衆の歌声が自然と四重唱になっていく美しさに惹かれた。中高生の頃、足が遠のきがちな年数でも、讃美歌に魅せられて年数回は教会へ足が向かった。

就職を機に東京へ。知人の紹介で聖ヶ丘教会のクリスマス・イヴ讃美礼拝を訪れた。あるとき、率先して会堂清掃をしている山北牧師を見て、「本物だ!」と感じた。その姿に、私たちの救いのため、罪にまみれた人間の世界に到来されたキリストの出来事が重ね写しになった。やがて自分が言い知れない不安の

会話は当然のことながら祈りをもって始め、祈りをささげて終ります。このことは教会会議には生ける主キリストが働かれ、主の心が示されると皆が信じていることを表しています。したがって、会議のメンバーたちが議題を審議する際に大切なことは、なによりもまず、その議題について主キリストのみ心はどこにあるのかを考えつつ語り合うことではないかと思えます。熱心さのあまり、ただ自分の考えを語ることに夢中になって、教会の主キリストのみ心を探ることを忘れると、その会議は一般社会の会議と少しも変わらないものとなってしまいます。教会会議はいつも「主よ、み心を示したまえ」と謙虚な祈りをもって終始したいものです。わたしたちは、現時点では、教団の教憲・教規の定めるところに教会の主キリストのみ心が示されていると考えているのです。(教団総幹事・内藤留幸)

教団の会議について思うこと

教団の教憲4条には、「本教団は教憲および教規の定めるところにしたがって、会議制によりその政治を行う」とあります。教団が行う会議制による政治とは、いわゆる長老制でも会衆制でも監督制でもなく、それらとは異なる教会政治形態を取り入れているというわけです。教団総会を初め、教区総会、教会総会その他、教団の宣教を担う各委員会なども会議を通して事を決め、それを実行していくというのです。

教団の会議制で大切な点は、教会の会議の持ち方にあります。教